

 評価のポイント

CL- I .ケアする力（共通）

〔26-1〕 症状マネジメント1 / 事例を用いた具体的な実践

① 鈴木さんの症状マネジメント支援として、他に考えられる方策について考えてみましょう

認知行動療法や SST など、さまざまな技法を柔軟に取り入れる視点があると良いでしょう。特定の技法でなくても、看護の方策が言語化できると良いでしょう。

② 患者が症状マネジメントに主体的に取り組むことができるように、発症初期や入院初期からできることが何か、考えてみましょう

精神症状が顕著で病識がない時期は、医療者が指示的に介入する場面が多くなります。そのような場面でも、患者の尊厳や選好を尊重する姿勢で関わることで、その後の患者看護師関係や患者の症状マネジメントへの動機づけにつながることを理解できていると良いでしょう。

③ 慢性に経過し、セルフケアが全般的に低下している患者に、症状マネジメントへの動機づけをするとしたら、どのような方策が考えられるでしょうか

慢性期の患者の主体性を高める支援は困難が大きく、看護師側にもあきらめや無力感が生じやすいです。患者に過負荷にならないよう配慮しつつ、希望を持ってスモールステップで考えることができると良いでしょう。